

令和8年度 学力等調査の結果について

令和8年度に実施された全国学力・学習状況調査（文部科学省）について、杉並区立小・中学校の結果を報告いたします。

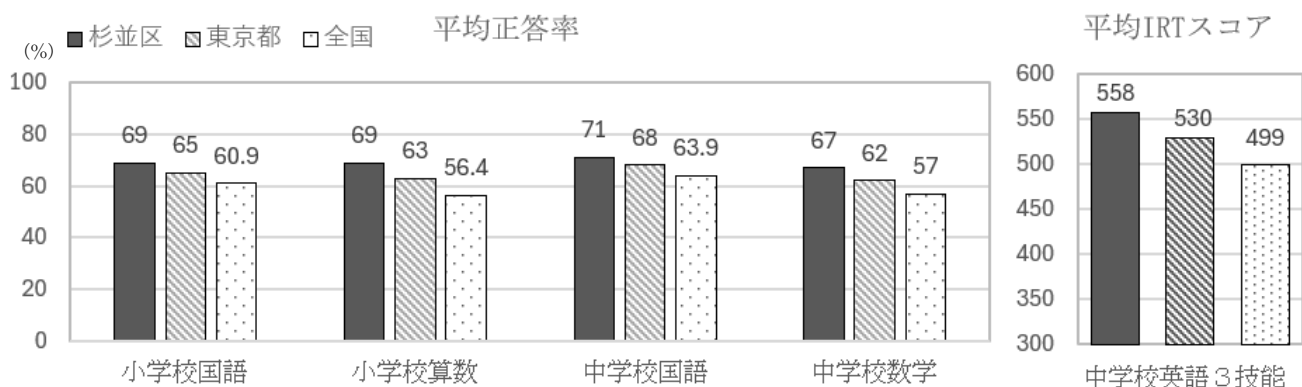
1 令和8年度 全国学力・学習状況調査（文部科学省）

目的	児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における学習指導の充実や改善等に役立てる。		
対象	公立、国立、私立小学校第6学年、中学校第3学年		
調査内容及び調査日	小学校	① 国語・算数	4月23日（木）
		② 質問調査	4月24日（金）～5月8日（金）の間で実施
	中学校	① 国語・数学	4月23日（木）
		② 英語3技能※ 生徒質問調査	4月20日（月）～23日（木）の間で実施
		③ 英語「話すこと」	4月24日（金）～5月29日（金）の間で実施
方式	①は冊子を用いた筆記方式、②・③はICT端末を用いたオンライン方式で実施		

※中学校英語は、IRT（項目反応理論）を用いて測定した。IRTスコアは問題の難易度を考慮して算出されるため、生徒の英語力を共通尺度で把握することができ、3技能の総合的な定着状況や課題の分析に活用することができる。なお、「話すこと」についての調査結果は別途公表予定（秋頃）であり、本資料のIRTスコアには含まれていない。

2 教科に関する調査結果

全ての教科において、杉並区の児童・生徒の平均正答率は東京都及び全国平均を上回った。また、中学校英語3技能調査においても平均IRTスコアが東京都及び全国を上回る結果となった。小学校国語・算数、中学校国語・数学では、「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の両観点において東京都及び全国を上回っており、中学校英語3技能においても、「読むこと」「書くこと」「聞くこと」の各技能で高い水準が見られた。



※IRTスコア

IRT（項目反応理論）に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。

3 質問調査に関する調査結果

質問調査の結果を見ると、ICT 活用に関する項目や主体的に学習に取り組む態度に関する項目は東京都及び全国を上回る一方、他者とのかかわりや学びを支える環境に関する項目は下回る傾向が見られた。

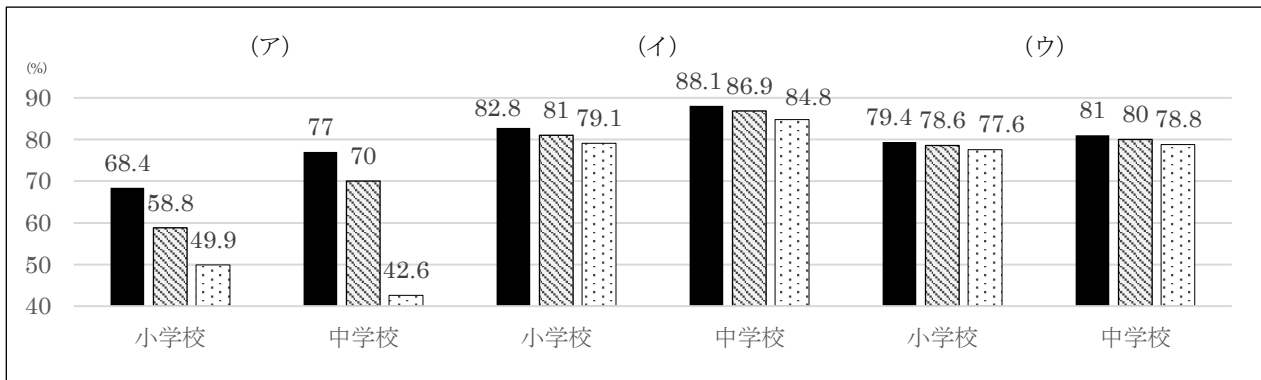
(1) 杉並区の割合が東京都や全国よりも高い数値を示した項目

(ア) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たり1時間以上勉強する。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

(イ) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができると思いますか。

(ウ) 課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか。

■杉並区 ■東京都 □全国



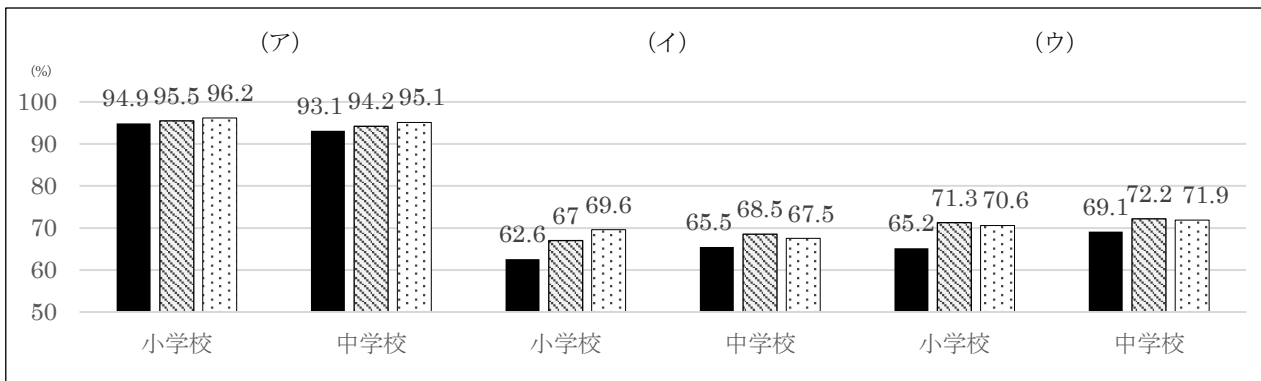
(2) 杉並区の割合が東京都や全国よりも低い数値を示した項目

(ア) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

(イ) あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか。

(ウ) 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。

■杉並区 ■東京都 □全国



4 今後の取組

杉並区の児童・生徒は、全国学力・学習状況調査において高い学力水準を維持している。その要因の一つとして、家庭での学習習慣が定着していることがうかがえる。

また、ICT 活用に関する項目や主体的に学習に取り組む態度に関する項目において全国平均を上回る結果となった。この結果は、教育委員会が教育課程の重点として示している「ICT を活用した学び」や「探究的な学び」の方向性と整合するものと考えられる。今後もこれらの取組を一層充実させ、すべての子どもたちの学び続ける力の育成に努めていく。

一方、他者とのかかわりや学びを支える環境に関する項目は全国平均を下回る結果となった。学習や生活を支える基盤として、教師と児童・生徒との信頼関係や、児童・生徒が互いを尊重し、安心して学ぶことのできる環境づくりを一層進めていく必要がある。

今後、教育委員会として、子どもたちの心理的安全性の確保に向け、互いを尊重し、安心して意見を表明できる学級風土の醸成に資する教員研修の充実を図る。また、各種調査における状況把握や分析ツールを活用したアセスメントを実施し、子どもたち一人ひとりが安心して学び、自らの力を発揮できる教育環境づくりを推進する。さらに、各学校における特別活動や道徳教育の充実に向け、必要な支援を行う。